

広仁会賞 第35回 櫛谷 桂

題 名 : Utility and pitfalls of immunohistochemistry in the differential diagnosis between epithelioid mesothelioma and poorly differentiated lung squamous cell carcinoma
(上皮型中皮腫と低分化型扁平上皮癌の鑑別診断における免疫組織化学の有用性とピットフォール)

発表誌 : Histopathology 2017, 70, 375-384

要旨 :

上皮型中皮腫と腺癌の免疫組織化学的染色による鑑別診断に関する研究は過去に多数報告されているが、上皮型中皮腫と扁平上皮癌の鑑別診断に関する研究はこれまでほとんど行われてこなかった。本研究では、充実性増殖パターンを示す上皮型中皮腫と、低分化型扁平上皮癌を対象とし、鑑別診断における免疫組織化学の有用性の評価、診断に有用な抗体パネルの選定、および診断上のピットフォールを明らかにすることを目的とした。上皮型中皮腫36例、扁平上皮癌38例を対象とし、Calretinin、D2-40、WT1、CK5/6、p40、p63、CEA、MOC31、Claudin-4、TTF-1、Napsin A に対する一次抗体を使用して免疫組織化学的染色を行った。WT1 は中皮腫陽性マーカーとして最も高い正診率 (85.1%)、CEA、p40、Claudin-4 は中皮腫陰性マーカーとして最も高い正診率 (95.9%、94.6%、93.2%) を示した。一方、上皮型中皮腫と肺腺癌の鑑別では有用とされている Calretinin (正診率75.7%)、D2-40 (正診率67.6%)、CK5/6 (正診率63.5%)、TTF-1 (正診率55.4%)、Napsin A (正診率52.7%) では、上皮型中皮腫と扁平上皮癌の鑑別は困難であった。これらのマーカーのうち、Calretinin と WT1 の組合せは中皮腫陽性マーカーとして最も高い正診率 (86.5%)、p40 と CEA の組み合わせおよび CEA と Claudin-4 の組合せは中皮腫陰性マーカーとして比較的高い正診率 (97.3%、94.6%) を示した。上皮型中皮腫と扁平上皮癌の免疫組織化学的染色による鑑別診断においては、中皮腫陽性マーカーとして WT1 と Calretinin、中皮腫陰性マーカーとして CEA と Claudin-4 の組合せが推奨される。